

妻沼聖天山(熊谷市)

めぬましょうでんざん

ここが「武蔵妻沼郷 歎喜天霊場」の入口



正面は貴惣門(重要文化財)/江戸時代末期建立の八脚門





聖天山貴惣門

種 別 国指定重要文化財建造物

指定年月日 平成十四年五月二十三日

妻沼聖天山聖天堂の正門として建てられた雄大規模の八脚門で、側面(妻側)に破風を三つ重ねた類例のない奇抜な形式に特徴がある。

寛保二年(一七四二)幕命で、利根川大洪水の復旧工事に妻沼を訪ねた周防国(山口県)岩国吉川藩の作事棟梁長谷川重右衛門に聖天堂の大工棟梁林正清が設計を依頼したもので、約百年後の嘉永四年(一八五二)正清の子孫林正道が棟梁となり完成した。

総檜造の精緻なつくりにより、多様な技法の彫物で要所を飾るなど、江戸末期の造形芸術の粋が発揮されている上、主要部材に奇進の名を残す等、郷民信仰の証を伝える貴重な建造物である。



さいたま市教育委員会
(宗)聖天山歎喜院





妻側に破風を三つ重ねた類例の少ない奇抜な形式が特徴















斎藤別当実盛像/熊谷直実や畠山重忠と並ぶ、源平合戦の英雄で、聖天山を開いたとされる



正面前方は四脚門(熊谷市指定文化財)/右手は護摩堂



護摩堂/交通安全祈禱を受けるためのものようだ





健康長寿観音



これが四脚門(中門)/熊谷市指定文化財





位除



懸魚の模様等に室町期の特徴をよく残し、寛文の大火で唯一残り聖天山の建造物群の中でも最古のものと言われる。
平成二年の解体修理により瓦葺きの屋根を銅板に置き替えたが、柱に明治四十三年（一九一〇）大洪水の痕跡を残す。
里人はこの門を長五郎門と称している。

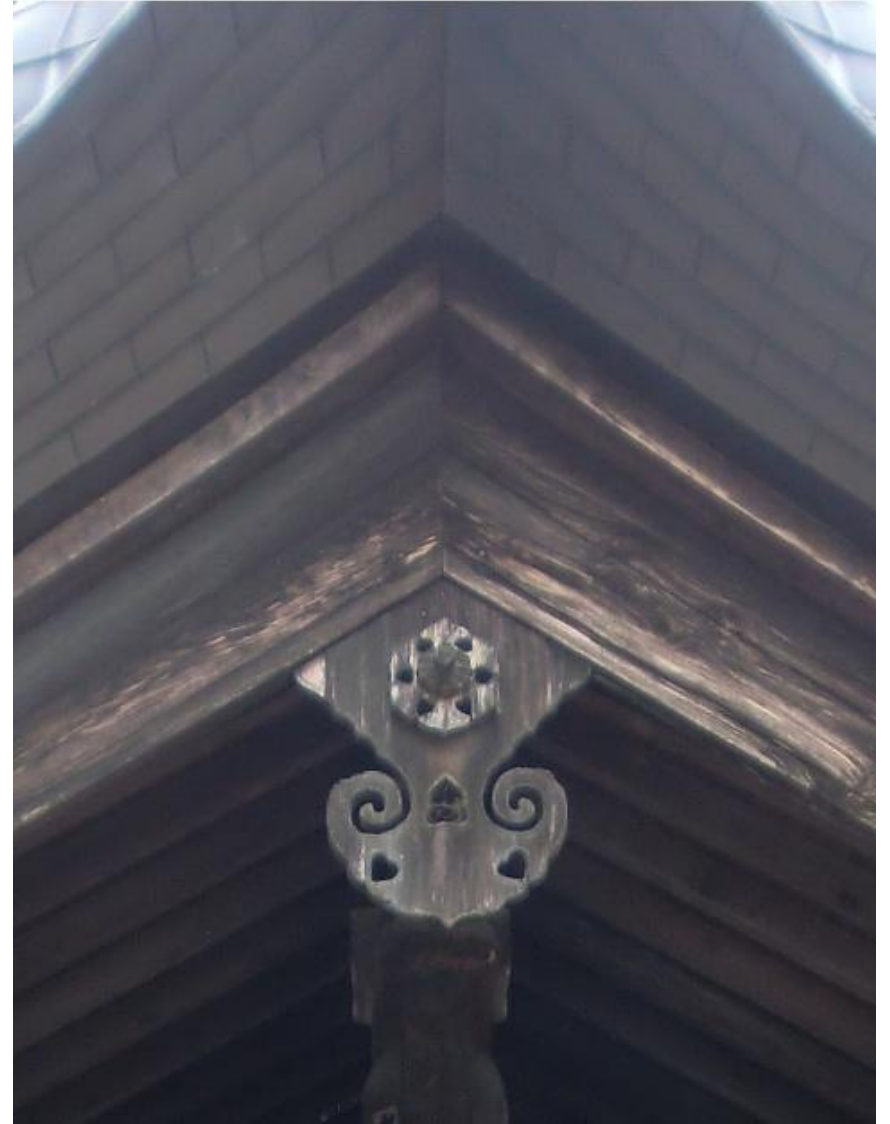
熊谷市教育委員会
聖天山 歡喜院

熊谷市指定文化財

- 種別 建造物
- 名称 四脚門（中門）
- 指定年月日 昭和三十七年八月三十日

懸魚の模様等に室町期の特徴をよく残しているといわれる聖天山で最古の建物











正面は仁王門





妻沼聖天山ご案内

当山は治承三年（八百数十年前）この地方の庄司斎藤別当実盛公が本尊聖天さまを総鎮守としてお祀りし民衆の祈願所として開創されました。

本坊は実盛公の二男良応僧都が聖天行者の修行所として建立されました。

聖天さまは仏法の守護神でありますので、多くの密教寺院では、寺院を守るために祀られています。

当山では直に祈願を誓める人を守る本尊さまとして祀られています。開運・厄除け・縁結びのご利益がいただけます。

聖天さまは秘仏でありますが、そのお姿は宇宙の真理、仏法の悟りをお示しになっておられます。信者は自らの信仰によって真理を体得すれば、心眼でお姿を拝することができ

ます。
聖天さまには次のような祈願を誓めることが出来ます。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ● 厄災消除 | ● 良縁成就 | ● 病気平癒 |
| ● 受験合格 | ● 交通安全 | ● 旅行安全 |
| ● 進学成就 | ● 身上安全 | ● 心願成就 |
| ● 家内安全 | ● 子宝満足 | ● 就職成就 |
| ● 商売繁盛 | ● 安産守護 | ● 身体健全 |
| ● 結婚式 | ● 誕生命名 | ● 初宮参り |
| ● 十三参り | ● 成人祝祷 | ● 遠慮祝祷 |

重要文化財「本殿」保存修理工事竣功お礼

約二百五十年前に建てられた「本殿」の彫刻の彩色がすっかり剥落し、風化腐朽が激しくなったため文化庁の許可をいただき、保存修理工事を行いました。平成十五年に着工し、平成二十三年の竣功法会の執行まで足掛け八年に涉りました。国・県・市の補助金約十億円のほか、に所有者負担として約三億五千万円が必要でした。これについて、二万人を超える方々には浄財をご寄附下さい。お陰様で、資金も無事成満できました。厚く御礼申し上げます。

しかしながら、彩色された彫刻は建物の外壁にあるため風雨に晒され、日々劣化が進んでいます。今後とも補修を続けて、その技術と信仰の心を後世に伝えなければなりません。更には、他のお堂・仏像などの修理・境内の整備などが続きます。今後とも各位のご寄附をよろしくお願い申し上げます。その方途としては、一、入場券でお願いいただく、二、維持資金をご寄附いただく、三、寄

各位のご信託に衷心よりお礼申し上げ、引き続きのお願いを申し上げます。

平成二十四年七月九日、本殿が国宝に指定されました

本殿の奥彫刻参観について

午前十時より午後四時まで

入場口へおいで下さい。

参観入場券一人七百元・(三十名以上団体には一割優待)

中学生以下の子供は同伴の大人がいれば無料

当山の都合で参観休止することがあります。

めぬまガイドボランティア「阿うんの会」でガイドすることがあります。(前日にお申込みいただければ確実です)

本殿の昇殿内拝について

本殿は本来、祈願の道場として造られました。

そこで昇殿内拝は祈願のお方のみです。

ご祈願の受付は平業は午前九時から午後四時までです。

水屋





聖天山所蔵文化財

一、本殿 (妻沼聖天堂) 国指定重要文化財 建造物

昭和五十二年十月十八日

源平合戦で名を馳せた斎藤別当実盛公が、治承三年(一一七九)古社を修造守本尊の大聖歡喜天を祀つて聖天宮と称し長井庄の総鎮守としたのに始まり、幾多の変遷を経て宝暦十年(一七六〇)林兵庫正清・正信の手により、二十五年の歳月をかけ現堂が完成した。本殿は奥殿、中殿、拝殿よりなる廟形式の権現造りで桃山建築美を伝える江戸中期の貴重な文化財である。昭和四十三年(一九六八)屋根替を終る。

二、錫杖 国指定重要文化財 工芸品

昭和二十五年八月二十九日

実盛公の外甥宮道国平が公の孫実家・実幹と建久八年(一一九七)四月聖天堂の本尊として奉鑄寄進したもので、鏝内中央に大聖歡喜天の御正躰を配し柄部に建立氏人及び鑄匠紀年等の刻銘がある。高さ五二・八cm、重さ一一・五kg。

大正三年四月国宝に指定、秘仏にして当地方の信仰の中心となる。

三、紵絲斗帳 埼玉県指定文化財 工芸品

昭和三十四年三月十日

中国明代の織物で忍城主成田長泰が、聖天堂の厨子に懸ける為に奉納したという。享保十六年(一七三二)八代将軍吉宗ご覧になり嘉賞。荻生徂徠編「度量衡考」に嘉靖の古物也(嘉靖は明の年号で、一五二一〜一六八)と紹介されている。

布の墨書銘にこの織物を紵絲と呼び中国福建省の機戸袁宗太が織つたと記されている。縦一四七cm、横一七〇cm。

四、罽口 埼玉県指定文化財 工芸品

昭和五十二年三月十日

直径三二cm銘帯に(武州福河庄聖天堂常住也大檀那當庄住人沙弥來阿「外帯に」曆應二年「一三三九」正月下旬の陰刻があり、南北朝時代に福河庄の存在を証する貴重な資料である。

平成八年四月御開扉記念

熊谷市教育委員会

聖天山 歡喜院

熊谷市観光協会



仁王門から本殿を見る









仁王門側面





本殿側から仁王門を見る









これは水行堂









正面が本殿/左手の赤い屋根は相撲場



本殿の右手には籠堂(寄棟屋根の建物)があり、その左手に鐘楼の入母屋屋根が見える



これは本殿の左手にある大師堂



正面は相撲場/左手が大師堂



本殿(ここは拝殿)













かんぎいんしょうでんどう
拝殿の奥(左手)に本殿(歓喜院聖天堂)が見える





正面が歓喜院聖天堂/1760年再建/国宝







廟型式權現造







本殿裏にある赤子稲荷社



同じく五社明神/右手は荒神社



五社明神



赤子稲荷社



五社明神/左手は赤子稲荷社



荒神社





荒神社



























































さて、次は鐘楼



この左手に明王の滝がある



弁天社と多宝塔(平和の塔)



平和の塔







さて、西側にある本坊へと進むと途中に板石塔婆があった



鎌倉時代の造立/熊谷市指定文化財



埼玉県 指定文化財

種別 考古資料

名称 板石塔婆「善光寺式三尊像板碑」

指定年月日 昭和四十年三月十六日

表面の主尊に、阿弥陀如来、脇侍に観音、勢至両菩薩を半浮き彫りにし、光背部に七化仏を配した所謂「善光寺式三尊像板碑」で通称「ひら仏」と呼ばれている。裏面には釈迦如来と文殊、普賢の両菩薩の種子が刻まれている。

紀年銘は無いが、鎌倉時代のものである。

この板碑はかつて妻沼小学校の敷地内(もと大我井森)にあったが昭和三十年十二月、校舎増築のため現在地に移転したものである。

高さ一七八cm・幅五九cm。



新の国さいたま

熊谷市教育委員会



ここは本坊歓喜院





正面は本堂





本堂左手にある金剛殿



参考ホームページ

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kanko/midokoro/numasuyoudenzan/index.html>

<http://www.ksky.ne.jp/~shouden/>

